

第 21 回 札幌市自立支援協議会 概要

日時：平成 26 年 3 月 27 日（木）18：00～20：57

場所：社会福祉総合センター 4 階 大研修室

◆研修会

『協議会について考える研修会』

講師：さっぽろ地域づくりネットワーク ワン・オール 林 健一氏

資料：なまらわかりやすい協議会及び別紙

協議会の制度上の位置づけから始まり、機能の説明、課題解決までの流れ、障がい福祉計画との連動まで、学ぶ研修会を開催した。関係者含め、約 60 名が参加した。

◇ 全体会（開始 19:00）

● 委員の出席状況

松川会長、石崎委員、妻倉委員、戸田オブザーバーが欠席。妻倉委員の代理で、中央区地域部会中山副部長が出席。

松川会長が欠席により、札幌市自立支援協議会設置要綱第 4 条第 3 項の規定により、岡本副会長が議事の進行を行う。

● 報告事項

1 まちの課題整理プロジェクトチームからの報告

○ 事務局（小野寺）

別途配布している平成 25 年度札幌市自立支援協議会年間活動報告書（以下、「報告書」という）をもとに説明（主に報告書 1～9 及び 43 頁）

○ 加藤委員

3 頁にあるヘルパーの技術向上のための研修について、札幌市自閉症・発達障がい支援センターおがるでも実施しているが、意欲のある人は来る。誰に向けての研修なのか、課題解決を求めているのはヘルパーなのか、利用者なのか、主語は誰かを知りたい。

○ 小谷委員

課題としては、事業所から上がってきているもの。

○ 加藤委員

熱意がある事業所は東区で何パーセントくらい？

○ 小谷委員

座談会では結構な数の声が上がっていたが、何パーセントかは分からない。半数以上の意見だったと思う。

○ 加藤委員

来なかった人が何パーセントくらいいるかということになる。ニーズに対して本当に研修で答えられるのか。やる気のあるヘルパーをさらに向上させるのか？あるいは、全体の底上げなのか？そこを明確にしないと、どういう研修にするか、目的がボケてしまう可能性がある。

○ 事務局（小野寺）

地域部会にアンケートを実施して半数くらい回答をもらったので、研修企画から有志を募って進めていきたい。

○ 岡本副会長

東区地域部会にも協力いただいて考えていければと思う。

2 各部会の活動報告

各部会の活動報告は別途配布している報告書をもとに説明あり。

○ 中山副副会長（妻倉委員代理）

中央区地域部会報告書をもとに報告（45～47頁）。

○ 和田委員

北区地域部会報告書をもとに報告（主に49～50頁）。

○ 小谷委員

東区地域部会報告書をもとに報告（87頁）。

○ 岡本副会長

白石区地域部会報告書をもとに報告（89頁）。

○ 岡本副会長

厚別区地域部会欠席のため書面でご確認を。

○ 中村委員

豊平区地域部会報告書をもとに報告（93～94頁）。

○ 栗虫委員

清田区地域部会報告書をもとに報告（99頁）。

○ 根本委員

南区地域部会報告をもとに報告（主に101～102頁）。

○ 村岡委員

西区地域部会報告書をもとに報告（109～112頁）。今期をもって会長を退くことになった。後任は決まっている。また、職務上の都合により、協議会の委員も退く予定。

- 小澤委員
手稲区地域部会報告書をもとに報告（主に 115 頁）。今期をもって部会長を退くことになった。後任も決まっている。
- 重泉委員
就労支援推進部会報告書をもとに報告（主に 121～122 頁）。
- 杉田委員
相談支援部会報告書をもとに報告（129 頁）。
- 北川委員
子ども部会報告書をもとに報告（131 頁）。
- 事務局（小野寺）
運営会議報告書（133 頁）、全体会報告書（135 頁）をもとに報告。
- 事務局（小野寺）
前回の第 20 回協議会において、平成 26 年度から身体障害者相談員、知的障害者相談員の地域部会等への参加について身体障害者更生相談所、知的障害者更生相談所からお願いしたが、この度、新しい相談員が決定されたため、今後新任相談員へ研修を行い、6 月頃を目途に活動を開始する予定。それ以降、再度名簿の配布と部会長へのお願いを障がい福祉課を通して行うことになると、担当者から連絡があった。
来年度地域部会予算として 136,000 円を配分。ただし、この予算の中には、区職員の時間外手当代も含まれているため、その点をご理解いただきたい。
- 森委員
地域部会で南区と清田区は事例検討が活動の中核になっていたが、事例検討は難しいと思う。イニシアチブやルールなどはどのようにしているのか？
また、就労支援推進部会の就労移行支援事業所へのアンケートの背景は？
- 根本委員
南区の事例検討は 24 年度に事例検討のガイドラインを作ったものが基盤。守秘義務や発言、アンケートについてルール化している。今後はスピード感が課題。
- 栗虫委員
清田区は幹事会メンバーが事例を持ち回りで出している。今後は一回の全体会で 2 つの事例を検討するなど、あまり時間をかけずに行ってはどうかという提案もされている。
- 重泉委員
アンケートのきっかけは、総合支援法になって就労移行支援事業が、制度上残らないのではないかという時期があり、実際の機能を知りたいということで行った。急激に事業所が増えて実際がわからなくなった、制度上

の困り感の把握の必要性から。

来年度は就労継続支援 A 型事業所へのアンケート実施の検討会を作っている。

○ 加藤委員

相談支援部会と子ども部会に聞きたい。計画相談の作成率は6パーセント。セルフプランは70パーセントと聞いているが、セルフプランと計画作成の基準は？

○ 杉田委員

基準はない。区役所の窓口で依頼文と一緒に、セルフプランのフォーマットと記載例も渡されている。相談支援事業所間の作成数の差もある。

○ 加藤委員

例えば、障がい福祉サービスを一つしか使わない人はセルフプランで、複数サービスの組み合わせの場合は計画を作成してもらったほうがいいのかと考えているが合っているか。

○ 杉田委員

障がい福祉サービスだけがすべてではないので、精神科デイケアも使うと言ったことも関係してくる。障がい児のサービスでも親御さんの考えなどもあり一概には言えない。

○ 北川委員

いきなり計画作成に入るのではなく、基本相談から必要になることと、本人と親御さんの両者のニーズを受けないといけない点が大切になる。

○ 加藤委員

全員に計画を作成するまで、ものすごく大変だと感じている。相談員の皆さんは、体調を壊さないようお願いしたい。

○ 村岡委員

高等養護卒業時、障がい福祉サービスを利用するときに、学校は進路指導の立場で限界がある。日中活動の紹介はしてきたが、家族ぐるみの支援が必要なケースは進路担当の先生と相談支援と一緒に組めば良い支援ができるのではと考えているが、でも相談が少ない。課題がぐちゃぐちゃになってしまったのを平場で支援を組みなおすのは何倍も大変になってしまう。

3 さっぽろ地域づくりネットワーク ワン・オールからの報告

ワン・オールの大久保センター長から配布資料をもとに説明。委託相談支援を始め、関係機関の支援をしていく。今後、各区地域部会へも参加させていただく。また、今後のワン・オールのスタッフ体制などの検討が必要。委託の相談支援事業所の後方支援にワン・オールのカフェスペースを活用してほしいと

のこと。

4 情報共有の流れについて

○ 事務局（小野寺）

協議会に関する研修情報や各部会からの情報発信等が、協議会の委員及び各部会に参加している方々に行き届くように、電子メールで周知する場合は件名に【周知】等とわかりやすく表記し、電子メールの文中でも「各部会内でも周知して下さい」と記載する。

各部長等はその情報をさらに部会内で広めることとする統一ルールで対応をお願いしたい。

● 年間活動報告書の提案

岡本副会長から年間活動報告書を事務局中村課長へ手渡し。

○ 事務局（中村企画調整課長）

お忙しいところありがとうございました。参考にさせていただきたい。

● その他

○ 杉田委員

身体障害者相談員の方の手稲区部会への参加について、相談員本人からこれ以上の業務が難しく、参加できないと言われたが、前回の全体会で提案のあった相談員の地域部会への参加依頼について、身体障害者更生相談所からの希望だったのが、相談員からの希望だったのか。

○ 事務局（小野寺）

持ち帰って身体障害者更生相談所、知的障害者更生相談所に確認したい。

(終了 20:57)